

トヨタ財団
ネットワーク形成プログラム

平成 21 年 11 月 20 日

団体名：特定非営利活動法人 歯科医学教育国際支援機構

代表者（役職・氏名）： 理事長・宮田 隆 印

団体所在地：東京都中野区沼袋 1-44-2

助成事業実施完了報告書

2007年度トヨタ財団アジア隣人ネットワークプログラム事業の助成金の交付を受けて実施した事業のプロジェクトが完了しましたので以下のとおり報告致します。

記

- 1) 企画題目：ネットワーク形成による健康管理システムの構築 ―カンボジア・ラオスの「少数民族会議」の形成―Phase 2 「カンボジア・モンドルキリ県少数民族のネットワーク構築による健康状況の把握と医薬品デリバリーシステムの構築」（受付番号：D07-N-118)
- 2) 助成額：2,500,000 円
- 3) プロジェクト期間：2007年11月1日～2009年11 月10日

6-1. 事業実施の概要

本事業は 2007 年 11 月から 209 年 11 月までの間、トヨタ財団アジア隣人ネットワークプログラム事業の助成金を受けて、カンボジア王国（以下カンボジア）で最貧困県であるモンドルキリ県において、少数民族間ネットワークの形成による健康管理システムの構築を実施した。重点的に実施したのは大きく二点に集約される。一つは少数民族会議というワークショップを介した住民たちの健康への意識の向上と自活性を得るための住民からの提案である。もう一つが、モンドルキリ県保健局と共同で実施した巡回医療団による検診と疾病・感染症予防に対する啓発、さらに緊急医療への初期対応である。まず、少数民族会議は、そのベースとして、2006 年 11 月から 2007 年 8 月の間に都合 3 回実施した本法人スタッフおよびに現地専門家による各ヘルスセンターと少数民族集落住民の健康状態、生活環境、医療環境実態への事前調査結果を踏まえ、それらの総括的な改善計画を少数民族会議というワークショップを介して議論した。その結果、疾病・感染症予防に必要な住民に対する啓発資材の提供、歯ブラシや滅菌機器などの資機

材の提供、緊急時の薬剤のストックなどの支援が提案された。本事業では、少数民族のそのような自発的な提案を考慮し、モンドルキリ県保健局の医師・歯科医師・薬剤師などと協力して提案のあった資機材を可及的すみやかに提供できる体制を構築した。デリバリーのシステムは、後述する巡回医療団の検診事業等によって確認しながら提供する方法を用いた。この方法によって中間搾取や持ち逃げ等カンボジアに頻発しているイリール・アクティビティの防止に努めた。本事業期間に 6 回の少数民族会議を開催した。その結果、この事業を通して“少数民族間ネットワーク、及びに少数民族と保健セクタースタッフ間のネットワークを形成すること、そしてネットワーク形成によって、少数民族の保健環境、保健センターへのアクセス状況の実態が広く認知されることとなり、結果として少数民族の保健衛生環境改善の方法の具体的な課題が顕在化したことは大きな成果と考えられる。多くの国際 NGO 団体が活動するカンボジアにおいて、地元住民は自らの生活環境の向上に対して受け身であることがしばしば見受けられるが、この事業では地元住民に生活環境の認識を促し、加えて自らの言葉で発言をする機会を与えることで、自発性や自立発展性につながっていく意識の改善が図られた。前述したように、会議において参加者自身でネットワーク形成プロジェクトを考案し、今後本法人が資金・技術援助を行い、事業を進めることが決定された。そこで、本事業の成果を踏まえ、ネットワークの基盤を発展させ、緊急医療としての医療品デリバリーシステムの構築あるいは継続的な会議開催により交流を深め、少数民族間の信頼感の向上が図られた。一方、巡回医療団の活動については、前述したとおり、モンドルキリ県保健局と共同で、各ヘルス・センターを核として少数民族が住む集落を巡回した。医科・歯科それぞれで住民の健康状態を健診し、疾病・感染症予防の啓発を行った。また、必要に応じて地元医師・歯科医師による初期治療も実施し、薬剤等のデリバリーについても説明した。しかし、現地の医療制度もあり、実際はヘルス・センターへの受診を原則として薬物が供給されるので、症状に応じた受診体制についても住民のコンセンサスを得た。さらに、2007 年 11 月より、現地責任者（Mak Chandarith 歯科医師）と現地での緊急医薬品のデリバリーシステムについて検討した。結果として、一保健所単位 200 ドル/年×6 保健所の医薬品購入支援を行い、雨期に備える（本件は自己資金として扱う）。医薬品の具体的な製品については各保健所管轄の特殊性を勘案し、重点購入については各保健所の裁量とする。例えば、熱性疾患多発地域では解熱剤を優先し、細菌性感染症多発地域では抗生剤を優先するなどの措置である。使用方法や近隣少数民族との連携は、下記の Chandarith 医師が巡回し健康相談、検診などに当たることとした。これは翌年 2 月の現地での少数民族会議によって各保健所および少数民族の代表たちによってコンセンサスが得られ、直ちに実施に移した。総括として、本事業によって、少数民族が自発的に健康に対する提案をおこない、それらのネットワークが様々な支援体制を考慮する原動力になった。さらに、モンドルキリ県保健局が自発的に巡回医療団を組織できたことで、当該県住民の健康が向上された。

事業実施内容

- ① 2007 年 11 月より、現地責任者（Mak Chandarith 歯科医師）と現地での緊急医薬品のデリバリーシステムについて検討した。結果として、一保健所単位 200 ドル/年×6 保健所の医薬品購入支援を行い、雨期に備える（本件は自己資金として扱う）。医薬品の具体的な製品については各保健所管轄の特殊性を勘案し、重点購入については各保健所の裁量とする。例えば、熱性疾患多発地域では解熱剤を優先し、細菌性感染症多発地域では抗生剤を優先するなどの措置である。使用方法や近隣少数民族との連携は、下記の Chandarith 医師が巡回し健康相談、検診などに当たることとした。これは翌年 2 月の現地での少数民族会議によって各保健所および少数民族の代表たちによってコンセンサスが得られ、直ちに実施に移した。
- ② 2008 年 2 月 : モンドルキリ県にて第一回少数民族会議開催（詳細は別記）
- ③ 2008 年 3 月 : OISDE より事業協力者（現地専門家）Dr. Mak Chandarith をモンドルキリへ 2 年間の契約で派遣。雨季を除く毎月のモンドルキリ県の各地区ヘルスセンターへの視察と歯科医療の提供、感染症の把握、ヘルスセンタースタッフへの技術提供を Dr. Mak Chandarith を中心として、モンドルキリ県ヘルスデパートメントが開始。
- ④ 2008 年 4 月 : 日本人専門家（中田信行歯科医師、塩川愛子看護師）2 名を派遣。2008 年 4 月 23 日から 25 日にかけてモンドルキリ県ヘルスセンターにてう蝕予防普及のためのフッ素塗付薬剤の使用法の技術移転と実地訓練、医療器材の寄付。緊急医薬品の管理状態と少数民族部落での使用状況の確認などを実施した。また、小学校の検診も併せて実施した。
- ⑤ 2008 年 10 月 : 10 月 13-15 日プノンペンノン、ヘルスサイエンス大学にてワークショップ開催。現地事業担当の Dr. Mak Chandarith および Dr. Veng Sanita を招聘し、モンドルキリ県事業の進捗状況報告、および今後のアクション・プランの確認をした。
- ⑥ 2009 年 4 月 第 4 回ワークショップ開催（詳細は別記）
- ⑦ 2009 年 7 月 日本人専門家派遣。資機材の供給
- ⑧ 2009 年 11 月 第 5 回 ワークショップ （詳細は別記）

6-2 事業の成果

6-2-1 (特活) 歯科医学教育国際支援機構の支援による歯科医師の配置

無歯科医師県から現在、歯科医師 2 名が OISDE の支援で口腔保健活動に従事している。

Dr. Mak Chandarith,



OISDE とヘルス・サイエンス大学歯学部主宰の卒後研修終了、歯周病専門医、2007 年より OISDE の支援により、故郷のモンドルキリ県に戻り、県保健局副所長として口腔保健事業に取り組んでいる。

Dr. Veng Sanita



OISDE の事業の影響を受け、志願して 2008 年よりモンドルキリ県の保健局に就職。主に小学校の口腔保健事業に取り組んでいる。

2008 年 2 月 少数民族会議の開催

この会議はモンドルキリ県の保健局と少数民族を多く抱える現地のヘルス・センターで三日間にわたり開催された。まず、少数民族の代表を保健局に招聘し、本法人の宮田理事長、ヘルスサイエンス大学歯学部の専門家による「口腔と感染症」についてセミナーを行った。少数民族の出席者は 15 名で 8 つの民族であった。最も遠路からの出席者は 10 時間が掛った。

以下に、少数民族会議の記録写真を掲載する。



その後、各セクションに分かれて、現地で悩んでいることについて議論を行い、ネットワークの重要性について理解を求めた。



一方、本事業に必要な資機材を現地に運び、その使用方法や管理体制について宮田理事長から説明があった。





少数民族が多く住むいくつかのヘルス・センターを視察し、その具体的な支援について議論を重ねた。下は Bousra Health Center 近郊の滝のそばで。

少数民族会議三日目、全体会議を開催した。この時は少数民族以外にも、各保健セクターの代表者も集まり、保健セクターとしてどう少数民族支援を行うかを多角的に議論された。出席者は 35 名であった。





本会議の最後にはモンドルキリ県保健局の所長が総括をおこない、終了した。





6-2-2. 医療提供/健康状態の把握

施設名 (州都からの距離)	地区名	地区人口	活動内容	活動回数	裨益者数
Boasra Health Center (60m)	Boasra	7, 358	歯科医療ポスター配布、地区住民およびヘルスセンタースタッフへの保健教育、プライマリヘルスケア、医薬品デリバリー	3	41
Sre Ampoum Health Post (60m)	Sre Ampoum (3つの村を含む)	998	歯科医療ポスター配布、地区住民およびヘルスセンタースタッフへの保健教育、プライマリヘルスケア、県病院へ患者紹介、プライマリヘルスケア、医薬品デリバリー	3	35

Sen Monorom Health Center (州都)	Sen Monorom(14 の村を含む)	8,286	歯科医療ポスター配布、地区住民およびヘルスセンタースタッフへの保健教育、プライマリヘルスケア医薬品デリバリー、医薬品デリバリー	3	40
Ou Reng Health Center (20Km)	Ou Reng (2つのコミューンを含む)	3,600	歯科医療ポスター配布、地区住民およびヘルスセンタースタッフへの保健教育、プライマリヘルスケア、学校・村での歯科教育、医薬品デリバリー	3	21
Khos Ngeek Health Center (100Km)	Kho Ngeek(6つのコミューン、32の村を含む)	14,691	歯科医療ポスター配布、地区住民およびヘルスセンタースタッフへの保健教育、プライマリヘルスケア、医薬品デリバリー	3	33

以上のように、モンドルキリ県ヘルスデパートメントは、OISDEの支援を受け、地区ヘルスセンターにおいて地元住民及びヘルスセンタースタッフへの保健教育、プライマリヘルスケアを3月から5月までの間継続的にこなした。また、巡回診療時に聞き取り調査を行い健康状態の把握をし、住民の健康状態に合わせて医薬品を提供した。このことにより、モンドルキリ県ヘルスデパートメントとヘルスセンター、地元住民との間の交流が深まり、信頼感が生まれ、ネットワークがより強く形成されてきている。雨季には、モンドルキリ県ヘルスデパートメントは電話による健康相談を受け付けるといった住民による自発的な活動も開始された。

Ou Reng 地区学校、村での歯科教育、歯ブラシの提供



Khos Ngek Health Center へのポスター（左上）、チェア（右上＝診療用）、歯科機材（左下）、医薬品（右下）の提供



6-2-3. 第3回ワークショップの開催 プノンペン

2008年10月13日、14日、15日と第三回ワークショップをプノンペン市で開催した。ワークショップでは、ヘルスサイエンス大学歯学部長、副学部長をはじめ、保健関係者が参加した。そして、モンドルキリ県より Mak Chandarith 医師、及びに Veng Sanita 医師を招聘し、モンドルキリ県のプロジェクト進捗状況報告、課題の確認、今後の活動計画立案を行った。今回のワークショップの成果として特記すべきは、モンドルキリ県の保健従事者がこのワークショップに備えて様々な準備をしたこと、そして、モンドルキリ県の状況をより多くの人々に知らせたことであると考えている。まず第一に、モンドルキリ県の代表・プロジェクト責任者である Mak Chandarith 医師が中心となってプレゼンテーションを準備してきており、準備段階ではモンドルキリ県の保健従事者と意見交換をするなど県内のネットワークがより深いものになりつつあることが分かる。また、このような発言の場を与えられたことにより、プロジェクトに対する自主性や責任感が生まれてきていることも効果として挙げられる。現地の人々同士でのネットワークを形成し、相互扶助の仕組みを作ることが持続性のある活動につながっていくことから、このようなワークショップを通してのネットワーク構築は大変重要である。次に、今回のワークショップにはヘルスサイエンス大学の学生も多数参加しており、今後のカンボジアの保健医療を担っていく若い世代の人々にモンドルキリ県の状況を伝えることができたことで、学生の見聞を拓き今後の保健医療改善につながっていくのではないかと期待できる。

第3回ワークショップ開会式



左から、宮田理事長、ヘルス・サイエンス大学歯学部長 Prof. Suon Phany, 副歯学部長 Prof. Tui Tel

2008年10月14日

第4回ワークショップ プノンペンおよびモンドルキリ県 2009年4月

第4回ワークショップはまず、プノンペンで今後の活動について話し合われた後、日本人専門家をモンドルキリ県に派遣し、事業の進捗状況、資機材の管理体制について調査した。その結果、事業は適切に実施されており、多くの住民が効果的に裨益されていることを確認した。



ワークショップでの宮田理事長の講演



日本人専門家による現地での聞き取り

調査(モンドルキリ県)



供与した資機材、薬品等の管理状態を詳細に

確認



資機材・薬品は適切に管理されていた



地元の少数民族との懇談を通して健康状態の実状を調査した。

第5回ワークショップで発表された Mak Chandarith 医師の活動報告を下記に記載する。

Report on dental health in Mondulkiri province in June 2009

I- Referral hospital in Senmonorum

People's involvement activities have been increased because most of them have an understanding of oral care. They go to the hospital for dental treatment as there is a low-priced service and some people who are not required to pay are the poor people, orphans, and hospital staffs.



Work activities:

people	Number of
	In total
-Extraction	11 persons
-Composite filling	10 canteen
-Scale	8 persons
-Root vessel treatment	6 persons
-Consultation	3 persons
-X-ray	2 persons
-Oral health education	50 persons
-Toothbrushes & toothpastes have been delivered to	42 people



- For other health centers, we received a report via a phone call that toothbrush and toothpaste facilities are given via the known people or health center staffs who attend a meeting at Health Department since the road condition is quite difficult to travel in rainy season.
- For work practice, nowadays there are some broken equipments in dental clinic and the hospital itself has to support the following:

- Anesthesia
- Needle
- Film, ray
- Endometason
- Composite
- Anal gum



II- KOH NHEK Health Center

- Extraction 2 persons
- Dental health education 28 persons
- Toothbrushes and toothpastes delivery 24 persons



III- BOUSRA Health Center

- Extraction 6 persons
- Dental health education 22 persons



IV- AURANG Health Center

- No dental nurse
- Dental health education 36 persons
- Toothbrushes and toothpastes delivery 36 persons

V- KEO SEIMA Health Center

- Extraction 2 persons
- Dental health education 51 persons

VI- MEMONG Health Center

- No dental nurse
- Dental health education 20 persons



Request

- Motorbikes for driving to all Health Centers
- Some extraction materials for dental nurses
- Some material for dentists in Hospital such as:
 - composite or anal gum
 - Endometasone
 - Anesthesia and Needle
 - Dental health illustrated-image board
 - Encourage the poor people by giving toothbrushes and toothpastes for dental health education.

Modulkiri, Dated June 25,2009

Signature

総括

本事業は、カンボジア王国の最貧県であるモンドルキリ県の少数民族の健康をネットワークの構築という情報、技術、医療サービス、デリバリーシステムを共有することによって支援しようというものである。従来の外国NGOの支援は一方的に資機材を供与し、住民がある共通の価値観をもって難題に取り組む、という姿勢には欠落していた。今回

は数回にわたる少数民族会議、ワークショップを介し、モンドルキリ県あるいはここに
住む少数民族が抱える問題点を顕在化し、さらにその問題に対して自分たちがどう取
組むかを自ら考え、提案することに大きな特徴がある。さらに、携帯電話等の供与によ
って情報伝達の手段を保健局自ら少数民族集落を管轄するヘルス・センターと構築し、
結果として常にそれぞれの少数民族間のトラブルを共有するネットワークが構築でき
たことは大きな成果と考える。今後は(特活)歯科医学教育国際支援機構独自のプロジェ
クトとして本事業は継続され、すでにヘルスサイエンス大学歯学部とモンドルキリ県の
保健局とはMOUを締結してある。

最後に

本事業を長期にわたって助成してくれたトヨタ財団および関係者に真摯な謝辞を申し
上げたい。こころより感謝申し上げます。